



©神奈川VANGUARDS

神奈川スポーツ賞

●車いすバスケットボール●

神奈川VANGUARDS

日本一のクラブチームを決定する、天皇杯 第50回記念日本車いすバスケットボール選手権大会において、3大会連続6度目の栄冠に輝いた。

「神奈川VANGUARDS」は、1973年に創立した、神奈川県を拠点とした車いすバスケットボールチームであり、東京2020パラリンピック男子銀メダリストや、パリ2024パラリンピック女子日本代表、2025年度日本代表強化指定選手など日本トップクラスの選手が所属している。

天皇杯では1990年、1993年、1997年に優勝、2023年から2025年にかけて3連覇を達成した。

単なる競技活動にとどまらず、車いすバスケットボールの普及とスポーツの楽しさを広める活動にも積極的に取り組んでいる。

第51回大会での天皇杯4連覇を目指すとともに、障がいや性別など関係なく、誰もがスポーツを身近に感じ、楽しめる場を提供すべく、共生社会の実現に向けて挑み続けている。

[藤沢市]

神奈川スポーツ賞

●スポーツクライミング（ボルダー）●
国民スポーツ大会
スポーツクライミング競技
少年男子神奈川県チーム



第 79 回国民スポーツ大会スポーツクライミング競技少年男子ボルダーにおいて優勝し、前回大会に続き 2 年連続優勝を果たした。

ボルダー競技は、ロープを使わずに 4 つの課題をいくつ「完登」できるかを競うもので、トップホールドに両手で触れて姿勢を安定させれば「完登」となる。

前回大会でも県代表としてボルダー優勝に貢献した濱田琉誠選手（県立鎌倉高等学校）と中学生にして代表入りを果たした仲田和樹選手（藤沢市立大清水中学校）の 2 人からなる神奈川県チーム。予選を 1 位で通過し、危なげなく決勝に駒を進めた勢いそのままに、決勝でも本来の力を発揮し、見事優勝を果たした。さらに、リード競技でも優勝し、ボルダー競技と合わせて 2 種目同時優勝となり、神奈川初の快挙を成し遂げた。

濱田選手は、今シーズンの世界ユース選手権 U17 でも、リード、ボルダーで優勝、仲田選手もリードで 2 位と、結果を残している実力者である。幼い頃から共に練習する関係で、濱田選手が初出場の仲田選手を上手く導き、仲田選手もそれに応えるというペア競技らしい仲の良さが、今回の結果となった。

2 人の若き実力者が世界へ羽ばたき活躍することが、今後、大いに期待される。



神奈川県スポーツ賞

●テニス●

湘南工科大学附属高等学校 テニス部男子団体チーム

高校テニス界において、これまでに全国高等学校総合体育大会6回、全国選抜大会7回の優勝を誇る県内有数の強豪校であり、プロ選手も輩出している。

そして、令和7年度全国高等学校総合体育大会テニス競技男子団体に優勝し、2連覇を果たした。

昨年11年ぶりの団体優勝を果たし、今大会は2回戦より登場した。

団体はシングルス2試合とダブルス1試合が同時に行われ、2回戦の沖縄尚学（沖縄）は2－1と競り勝ち、3回戦から準決勝までは2－0と危なげない試合で駒を進め、決勝は昨年と同じ相生学院（兵庫）との対戦となった。

3試合が同時に進む中、まずは川西飛生選手がシングルス1でフルセットの熱戦を制し、1勝を挙げた。さらに、ダブルスで松村怜選手、名雪楽工選手ペアが、こちらもフルセットにもつれた接戦を制し、2年連続6度目の優勝に輝いた。これで、昨年度の全国高等学校総合体育大会、全国選抜大会に続き、全国大会3連覇を達成した。

来年度は、同校初となる全国高等学校総合体育大会団体3連覇に挑戦する。

[藤沢市]



神奈川スポーツ賞

●ラグビーフットボール●

桐蔭学園高等学校ラグビー部

昭和 39 年の開校とともに創部されたラグビー部は、第 76 回（平成 8 年度）全国高等学校ラグビーフットボール大会に初出場し、第 90 回（平成 22 年度）大会では初の全国優勝（同点で両校優勝）を果たした。

第 99 回（令和元年度）全国高等学校ラグビーフットボール大会では、悲願の単独優勝（9 年ぶり 2 回目）を達成した。

第 104 回（令和 6 年度）全国高等学校ラグビーフットボール大会では 2 回戦からの登場となり、初戦の流通経済大柏（千葉）を 48－7、3 回戦では山梨学院（山梨）を 46－0。準々決勝は昨春の選抜大会優勝の大阪桐蔭（大阪第 1）に 26－14 と逆転勝利し、準決勝の国学院栃木（栃木）に対しても 25－14 と逆転勝利で勝ち上がった。

迎えた決勝戦では、東海大大阪仰星（大阪第 2）を相手に前半を 12-0、後半も着実に得点を重ね 40-17 で勝利した。2 大会連続 5 回目の優勝となり、第 100 回（令和 2 年度）全国高等学校ラグビーフットボール記念大会以来、2 度目の連覇達成となった。チームのスローガンである「律」「頂点を目指して自らを律し、チームを律する」の通り、それぞれがやるべきことを冷静に判断し、連覇のプレッシャーを跳ね除け、見事に栄冠を掴んだ。

さらなる高みを目指すチームは、今後の活躍も大いに期待される。

[横浜市]



神奈川県スポーツ賞

●硬式野球●

横浜高等学校硬式野球部

昭和 21 年に創部された野球部は令和 6 年度までに、選抜高等学校野球大会に 17 回出場（4 回優勝）、全国高等学校野球選手権大会に 21 回出場（2 回優勝）している全国の強豪校である。

そして、同校野球部は、17 回目の出場となった第 97 回選抜高等学校野球大会（令和 6 年度）において、19 年ぶり 4 度目の優勝を果たした。

初戦は、市立和歌山（和歌山）に対し初回に先制すると、2 回にも追加点を重ね主導権を握り、4 回、5 回と 1 点ずつ失うも二番手の奥村頼投手が 6 回からを無失点に抑え勝利した。2 回戦、沖縄尚学（沖縄）にはのべ 6 投手の継投で 8 - 7 と競り勝った。

準々決勝、西日本短大附属（福岡）には、2 回に先制を許すも中盤に逆転し 5 - 1 で勝利し、続く準決勝の健大高崎（群馬）は大会注目選手である石垣投手を攻略し、5 - 1 と順調に勝ち上がった。

決勝戦は、智辯和歌山（和歌山）に 1 対 1 とした 3 回裏、阿部葉主将の 2 点タイムリーで勝ち越すと、6 回には 7 安打を集めて一挙 6 得点し、勝利を大きく引き寄せ、見事優勝を果たした。

甲子園大会制覇は春夏通算 6 度目。常勝チームとして躍動し続ける伝統校は、今後の活躍も大いに期待される存在である。

[横浜市]